

第 36 回 日本心身健康科学会 学術集会 人間総合科学大学大学院研究発表会 合同大会

メインテーマ

『Gather at JSHSMB*！

～心身健康科学を創り社会へつなぐ～』

会期：2023 年 2 月 25 日（土）

会場：ハイブリッド開催

蓮田キャンパス、およびオンライン Web 会議システム（Zoom）



日本心身健康科学会

The Japan Society of Health Sciences of Mind and Body

- 参加費：前期登録 3,000 円，後期登録 5,000 円

- 大会参加者へのお願い

1. 一般口演発表の先生方へ

- (1) 発表方法は、Power Point 使用でのプレゼンテーションとします。
- (2) 発表時間は、発表 7 分、質疑応答 8 分の計 15 分間です。発表中、6 分経過時（発表終了 1 分前）、7 分（発表終了）、15 分（演者交代）に、それぞれベルでお知らせします。発表時間は厳守してください。
- (3) 発表用スライドの枚数に制限はありませんが、発表時間に見合うものとしてください。
- (4) 動画や音声ファイルを使用される場合は、事前の動作確認を特に入念に行ってください。学術集会前日 2/24（金）の 10 時から 16 時まで、Zoom にて事前の動作確認を行っていただくことも可能です。詳しくは別途お送りいたしますご案内をご参照ください。
- (5) 発表用データは、2/22（水）正午までに学会事務局（jshas@human.ac.jp）宛にメールにファイルを添付してご提出ください。
- (6) 口頭でのご発表とあわせて、ポスター発表も行なっていただきます。詳細につきましては、学会 HP（https://jshas.human.ac.jp/rally/36th_meeting/）をご確認ください。

※ (5) についての補足説明（詳細は上記の学会 HP をご確認ください）

会場参加にてご発表の方へ

事務局で用意したパソコンにて、発表を行なっていただきます。ハイブリッド環境を整えるため、ご自身のパソコンを使用していただくことはできません。

オンライン参加にてご発表の方へ

基本的にはご自身で、画面の共有やスライドの操作を行なっていただきます。事前に事務局にお送りいただく発表用データは、機材やインターネット環境のトラブルに備えたバックアップ用です。

2. 座長の先生方へ

- (1) 前セッションの終了後、速やかにご担当いただくセッションの準備を始めてください。
- (2) 演者の発表時間の超過がないように、適切に進行してください。

3. 質問される方へ

オンライン参加で質問される方は、タイミングをみて、ミュートを外し、所属と氏名を述べてから発言をお願いします。なお、質疑応答の時間は限られておりますので、要点のみを簡潔にご質問ください。また、発表時間超過防止の都合上、座長より発言の許可を得られない場合があります。会場参加の方は、会場の中央のマイクスタンドにお並び下さい。

4. オンライン参加者の方へ

大会中、質問時以外は、音声はミュートにしておいてください。ミュートを外すと発声していなくても、環境音が伝わる場合がありますのでご注意ください。

第 36 回 日本心身健康科学会 学術集会
人間総合科学大学大学院研究発表会 合同大会

プログラム

2023 年 2 月 25 日（土）
ハイブリッド開催
蓮田キャンパス、およびオンライン Web 会議システム（Zoom）

【午前の部】

9 : 30			受付開始
10 : 00	～	10 : 10	開会挨拶
10 : 15	～	11 : 00	一般口演
11 : 00	～	11 : 10	休憩・時間調整
11 : 10	～	11 : 55	一般口演
12 : 00	～	12 : 20	総会
12 : 20	～	13 : 20	昼休憩・ポスター自由閲覧

【午後の部】

13 : 20	～	13 : 40	ポスターセッション（探究発表会）
13 : 40	～	15 : 05	ポスターセッション（大学院発表会）
15 : 05	～	15 : 10	休憩・時間調整
15 : 10	～	16 : 10	教育講演
16 : 10	～	16 : 20	休憩・時間調整
16 : 20	～	16 : 30	閉会挨拶

1. 開会挨拶

(10 : 00～10 : 10)

2. 一般口演 (発表 7 分, 質疑応答 8 分)

(10 : 15～11 : 50)

座長 : 入井 俊昭 (警視庁科学捜査研究所), 中村 茂美 (アール医療福祉専門学校)

10:15～10:30

演題 1 : COVID-19 に対応する保健所保健師のメンタルヘルス

○中川 陽子¹⁾, 高橋 幸子²⁾, 松井 豊³⁾

- 1) 順天堂大学 保健看護学部
- 2) 玉川大学 リベラルアーツ学部
- 3) 筑波大学 働く人への心理支援開発研究センター

10:30～10:45

演題 2 : 認知症患者の家族の介護負担感に関する文献検討

○小宮山 政枝¹⁾²⁾, 吉田 浩子³⁾, 中山 和久³⁾, 島田 涼子³⁾

- 1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科
- 2) 駒沢看護専門学校
- 3) 人間総合科学大学大学院

10:45～11:00

演題 3 : 女性アスリートの練習前後の気分状態に関するメタ分析

○山崎美枝¹⁾²⁾, 藤原宏子³⁾, 吉田昌宏³⁾, 庄子和夫³⁾, 矢島孔明³⁾

- 1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科
- 2) 釧路短期大学 生活科学科
- 3) 人間総合科学大学大学院

11:10～11:25

演題 4 : 強みの活用と実力発揮および心理的競技能力との関連

○山下 貴士¹⁾, 森田 理仁²⁾, 島田 涼子²⁾, 鍵谷 方子²⁾

- 1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科
- 2) 人間総合科学大学大学院

11:25～11:40

演題 5 : 運動系列学習初期の疲労感とパフォーマンスの関係

【博士学位申請】

○津村 宜秀¹⁾, 中山 和久²⁾, 小岩 信義³⁾

- 1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科
- 2) 大阪保健医療大学 保健医療学部
- 3) 人間総合科学大学大学院

11:40～11:55

演題 6： 採血時における精神的不安が自律神経に与える影響

○永田 美智¹⁾²⁾，小岩 信義³⁾，中山 和久³⁾，鍵谷 方子³⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科

2) 静岡医療科学専門学校 医学検査学科

3) 人間総合科学大学大学院

3. 総会

(12 : 00～12 : 20)

(昼休憩・ポスター自由閲覧)

4. ポスターセッション

(13 : 20～13 : 40)

人間総合科学大学 心身健康科学科 総合演習探究研究発表会

5. ポスターセッション

(13 : 40～15 : 05)

人間総合科学大学 大学院 研究発表会

前半発表 (13 : 45 ～ 14 : 15)

後半発表 (14 : 20 ～ 14 : 40)

自由討論 (14 : 40 ～ 14 : 55)

6. 教育講演

(15 : 10～16 : 10)

座長：小岩 信義 (人間総合科学大学)

心身健康科学における学問の智慧～「心身相関」が教えてくれたこと～

竹端 佑介 先生

大阪国際大学 人間科学部 人間健康科学科 准教授

博士 (心身健康科学)

7. 閉会挨拶

(16 : 20～16 : 30)

第 36 回 日本心身健康科学会 学術集会
・ 人間総合科学大学大学院研究発表会 合同大会

目 次

教育講演 -----

心身健康科学における学問の智慧～「心身相関」が教えてくれたこと～	竹端 佑介.....	2
----------------------------------	-----------------	---

一般口演

COVID-19 に対応する保健所保健師のメンタルヘルス	 中川 陽子 他	4
認知症患者の家族の介護負担感に関する文献検討	 小宮山 政枝 他	5
女性アスリートの練習前後の気分状態に関するメタ分析	 山崎 美枝 他	6
強みの活用と実力発揮および心理的競技能力との関連	 山下 貴士 他	7
運動系列学習初期の疲労感とパフォーマンスの関係 【博士学位申請】	 津村 宜秀 他	8
採血時における精神的不安が自律神経に与える影響	 永田 美智 他	9

教育講演

抄録

心身健康科学における学問の智慧

～「心身相関」が教えてくれたこと～

竹端 佑介

大阪国際大学 人間科学部 人間健康科学科 准教授

ストレス社会と言われる現代において、私たちはストレスに対して様々な方法で対処しようとしてきました。そのような中、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックは個々人の心身だけでなく、個人を取り巻く環境にも大きな影響を与え、未だ解決策が見えない状況にあります。こうした先の見通しが立たない状況の時こそ、心身健康科学から学ぶべきことは沢山あると考えます。すなわち、私たちの心と身体の関係性を理解すること、理解しようとする心構えが、この困難な状況を乗り切るためのヒントを与えてくれるのではないかと考えます。

私は、臨床心理士/公認心理師という立場から、心の問題を抱えている方々を日々支援しております。心理臨床活動を行い始めた頃は、心の問題は、Freud, S.や Jung, C. G.など種々の心理学の理論を学び、そこから心の内面の理解さえ行えば、解決に繋がると信じて疑わずに支援を続けていました。しかし、心のみを理解の対象にするのには限界があり、支援に行き詰まりが出てしまいました。行き詰まりから脱却すべく模索を続けていく中で、心身健康科学という学問に出会い、重要なキーワードである「心身相関」を理解していくことは、心理臨床活動への支援に繋がることが教わりました。たしかに、日本においては古くより心と身体との繋がりが考えられてきたことを鑑みると、人間を心と身体、そして環境・社会の面から科学的に探求する心身健康科学は大変重要な学問であり、昨今の社会状況に大きく寄与するものと考えられるわけです。

本講演においては、日本の風土における心身相関の考え方を垣間見ながら、心理臨床活動における支援のための心身相関の考えを応用していく可能性について触れてみたいと思います。そして、私たちが“よりよく生きるため”に貢献するための学問である心身健康科学が、人々への支援にどのように活かすことができるのかを皆様と一緒に考えていきたいと思います。混沌とした昨今の状況においては、学問を通じた探求することの意味を改めて考えていくこともとても大切なことのように思います。心身健康科学は心身の関係性を科学的に探求しています。本講演を通して、探求することの意味についても様々な領域で学んでおられる皆様と考える機会にしたいと思います。

一般口演

抄録

COVID-19 に対応する保健所保健師のメンタルヘルス

○中川 陽子¹⁾, 高橋 幸子²⁾, 松井 豊³⁾

1) 順天堂大学 保健看護学部 2) 玉川大学 リベラルアーツ学部

3) 筑波大学 働く人への心理支援開発研究センター

【目的】

本研究では、COVID-19 に対応する保健所保健師と保健所以外で勤務する保健師（以下、非保健所保健師）のメンタルヘルスを比較検討することを目的とした。

【方法】

メディリード社に登録する COVID-19 に対応する保健所保健師と、非保健所保健師を対象に web 調査を実施し、残業時間、職業性ストレス簡易調査票の A 項目（仕事上のストレス要因）及び C 項目（修飾要因：上司、同僚、配偶者・家族・友人からのサポート）、GHQ12 精神健康票について、保健所保健師 70 名と非保健所保健師 106 名のデータを比較検討した。

【結果】

両群の残業時間の状況について図 1 に示す。各尺度について t 検定を行った結果、A 項目は保健所保健師 ($M=17.93, SD=3.70$) が非保健所保健師 ($M=16.00, SD=3.79$) よりも有意に高く ($p<.01$)、GHQ12 においても、保健所保健師 ($M=6.03, SD=3.91$) が非保健所保健師 ($M=4.75, SD=3.68$) よりも有意に高かった ($p<.05$)。C 項目については、両群に有意差はみられなかった。

表 1. 保健所保健師と非保健所保健師の残業時間の状況

	残業なし	月 30 時間未満	月 30 時間以上 45 時間未満	月 45 時間以上 80 時間未満	月 80 時間以上 100 時間未満	月 100 時間以上	分からない
保健所保健師 (人)	3 (4.3%)	14 (20.0%)	17 (24.3%)	11 (15.7%)	7 (10.0%)	9 (12.9%)	9 (12.9%)
非保健所保健師 (人)	14 (13.2%)	62 (58.5%)	15 (14.2%)	4 (3.8%)	2 (1.9%)	2 (1.9%)	7 (6.6%)

【考察】

本研究から、保健所保健師は非保健所保健師よりも仕事上のストレスが高いことが明らかになった。残業時間をみると保健所保健師は月 80 時間以上勤務の者が 22.9% もいることから、残業時間だけをみても激務であることが窺える。C 項目はソーシャルサポートに関する項目で構成されており、両群に差がなかったことから、今回の結果は仕事上のストレスが保健所勤務か否かで異なることを示していると考えられる。今後、保健所保健師へのストレスマネジメントを行っていくことが重要であろう。

【結論】

COVID-19 に対応する保健所保健師は非保健所保健師よりも仕事上のストレスが高いことが明らかになった。今後、保健所保健師へのストレスマネジメントを行っていくことが重要である。

倫理審査申請承認機関：筑波大学（第 東 22-60 号）

キーワード：COVID-19, 保健所保健師, 仕事上のストレス, 残業時間

* 本研究は、科研費の助成を受けて実施した（課題番号：21K10976）。

認知症患者の家族の介護負担感に関する文献検討

○小宮山 政枝¹⁾²⁾, 吉田 浩子³⁾, 中山 和久³⁾, 島田 涼子³⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科 心身健康科学専攻 修士課程

2) 学校法人 駒沢岩見沢学園 駒沢看護専門学校

3) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科

【目的】

認知症患者を居宅で介護している家族介護者の介護負担感の軽減に資する知見を獲得することを目的に、介護負担感に影響する諸要因を検討した。

【方法】

2022年3月13日に、医学中央雑誌webを用いてシステマティックレビューを実施、「家族介護者」「介護負担感」「認知症」の全てのキーワードが含まれる日本語の原著論文85件(2000-2021年)を抽出した。そのうち、介護負担感に関連する諸要因が明示されていた79件を分析対象として選定し、KJ法を用いて概念分析を行った。

【結果】

認知症患者の家族介護者の介護負担感は、「こころ」と「からだ」の双方から生じていた。介護負担感の関連要因として、「心理的要因」「身体的要因」「個人特性」「介護への対応力」「被介護者の状況」「介護環境」「支援要因」の7つが抽出され、個々の要因と要因間の関連の諸相が介護負担感の程度に影響し、介護負担感の増悪は心身不調と相互に関連していた。このような家族介護者の介護負担感軽減への支援には、情緒的支援、情動的支援、道具的支援評価的支援があることがわかった。

【考察】

介護負担感は、様々な関連要因との相互関係の中で生じ、その程度は、関連要因の状況により可変的で、介護負担感の軽減には、その関連要因のいずれかに対する「支援」が有効であると推察した。さらに、家族介護者の適切な社会資源の利用が、介護負担感の軽減に有用で、そのためには、介護生活の中で生じる様々な困りごとを気軽に相談できる「相談しやすい環境」の構築が重要であり、それが結果的に、家族介護者の心身の健康に寄与すると考えた。

【結論】

家族介護者の介護負担感は、「こころ」と「からだ」のいずれかあるいは双方に自覚される事象であり、その軽減のためには、必要に応じてその関連要因を明確化し、適切な支援を求めやすい環境を整備することが肝要であることがわかった。

キーワード：家族介護者、介護負担感、認知症、心身健康科学

女性アスリートの練習前後の気分状態に関するメタ分析

○山崎美枝^{1,2)}, 藤原宏子³⁾, 吉田昌宏³⁾, 庄子和夫³⁾, 矢島孔明³⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科

2) 釧路短期大学 生活科学科 3) 人間総合科学大学大学院

【目的】

女性アスリートにとって多くのストレスがストレス反応を引き起こすことが先行研究で明らかになっている。そこで、日常の練習場面に注目し、練習前後の気分の差をメタ分析により明らかにし、心身健康科学の視点からスポーツ現場における食支援に有益な情報を得ることを目的とする。

【方法】

医中誌 Web, CiNii により女性アスリートのストレス関連の文献を抽出した後、日常の練習前後の Profile of Mood States (POMS) スコアについて比較、統合が可能な文献 4 件、4 種目（器械体操、陸上長距離、バレーボール、ハンドボール）を対象に、バイアスを修正した標準化平均値差 Hedges'g の算出と、変量効果モデルによるメタ分析を行った。

【結果】

メタ分析により統合した平均効果量 g は、絶対値が大きい順に「怒り」0.42, 「緊張」0.38, 「情緒混乱」0.34, 「抑うつ」0.27, 「活動性」0.04, 「疲労」0.01 であった。コーエンの基準では 6 項目中 4 項目が小 (0.2) ～中 (0.5) であり、練習後よりも練習前で POMS スコアが高く、ネガティブな気分が強いことが明らかとなった。競技特性別にみると個人競技かつ体重制限競技の効果量が高く、特に陸上長距離に顕著であった。

【考察】

アスリートはエネルギー補給とリカバリーの目的で練習前後に補食を摂る習慣がある。練習前の怒り、緊張、情緒混乱による精神的な状況は、脳腸相関による補食の消化・吸収に影響を与え、エネルギー供給不足、胃の不快感等から練習に支障をきたすことが危惧される。練習前の摂食では心身の状態を踏まえた消化吸收への配慮の必要性が示唆された。

【結論】

女性アスリートは練習後に比べ練習前に怒り、緊張、情緒混乱などのネガティブな気分が強く、個人競技、体重制限競技にその傾向が強くみられた。練習前の摂食に関して消化吸收を考慮した食支援の必要性が示唆された。

キーワード：心身健康科学、女性アスリート、POMS、練習期、メタ分析

強みの活用と実力発揮および心理的競技能力との関連

○山下貴士¹⁾，森田理仁²⁾，島田涼子²⁾，鍵谷方子²⁾，

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科 2) 人間総合科学大学大学院

【目的】

スポーツにおいては、本番で実力を 100%発揮することができないことがしばしばある。本研究は、日常的な性格の強みの活用が、選手の本番での実力発揮、および心理的競技能力とどのように関連するのかを、全体及び男女別に調査することを目的とした。

【方法】

大学生競泳選手 38 名に対して、「自分の強みを知る生き方の原則」調査票により、自分の強みを確認した後、その日常的活用度を、強みの活用尺度 (SUS) で調査した。また、心理的競技能力診断検査 (DIPCA.3) を実施した。その後、SUS を高めることを心掛けてもらい、試合に出場した後、自己ベスト率を測定した。各項目の関連性を全体及び男女別に検証した。

【結果】

試合前の SUS の平均得点は 47.2 (満点は 70)、DIPCA.3 の平均得点は 173.4 (満点は 240) であった。試合の平均ベスト率は 99.83% (98.29~101.41%) であった。SUS とベスト率との間に有意な相関はみられなかったが、SUS と DIPCA.3 (およびその下位因子の一部) との間に有意な正の相関がみられた。SUS と DIPCA.3 の間の有意な正の相関は、女子選手においてのみみられた。

【考察】

本研究では、SUS とベスト率の間には有意な相関は見られなかった。この理由として、99.83%という高いベスト率と 98.29~101.41%という分布の狭さに関係していると考えられる。自分の強みだけでなく、他者への強みに注目したことにより、自信、作戦能力、協調性等の DIPCA.3 の因子が SUS と有意な正の相関を示したと考えられる。

【結論】

日常的に強みを活用する選手は、心理的競技能力が高いことが示唆された。強みの活用を高めるアプローチは心理的競技能力を高め、その結果として競技成績を上げる可能性がある。男女別のメンタルトレーニングを考えていく必要性が示唆された。

倫理審査申請承認機関：人間総合科学大学 (第 680 号)、神奈川大学大学 (2022-11)

キーワード：心身健康科学、実力発揮、SUS、DIPCA.3

運動系列学習初期の疲労感とパフォーマンスの関係

○津村 宜秀^{1,2)}, 中山 和久³⁾, 小岩 信義³⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科

2) 大阪保健医療大学 保健医療学部 3) 人間総合科学大学大学院

【目的】

運動系列学習には疲労感を伴うことがあるが、疲労感が運動系列学習に与える影響は十分分かっていない。この度は運動系列学習による疲労感がパフォーマンスの変化に与える影響を検証した。尚、本報告では学習初期に絞って報告する。

【方法】

対象は健康な大学生 25 名(男:11 女:14 平均年齢 19.8 歳)である。学習課題は連続反応時間課題(SRTT)を用いた。SRTT は 12 タッピング×3 を 1 ブロックとして全 35 ブロック行う。その内、同じ系列が続くシーケンスセッション(SS)を 25 ブロックとし、開始 3 ブロックを SS1 とした。また、ランダムに刺激が提示されるランダムセッション(RS)を SS の前後に各 5 ブロック行った。SS の各ブロックで平均反応時間(RT)と変動係数(CV)を算出し、シーケンスブロック(SB)の RT はランダムブロック(RB)5 の RT で除した値を用いた。セッション間には 5 分間の計測期を設け、計測期と実験開始、終了時の計 6 回で主観的指標を計測した。主観的指標は疲労感として Multidimensional Fatigue Inventory(MFI)と主観的疲労感の 6 段階尺度、覚醒度としてスタンフォード眠気尺度を計測した。また、3 つの主観的指標を用いた主成分分析を行い、第 1 主成分(心身の不調)を抽出した。

統計解析は開始時 RS と SS1 の各ブロックにおける RT, CV について反復測定一元配置分散分析を実施した。また、SS1 の前後で各種主観的指標が増加した群(増群)と低下もしくは不変であった群(非増群)の 2 群間で RT 及び CV の変化量に関する差の検定を実施した。いずれも有意水準は 5%とした。

【結果】

各セッションの RT については RS の RB1-2 間と SS1 の全てのブロック間で有意に短縮した。CV ではいずれも有意差を認めなかった。SB1-3 間の RT の変化量については MFI (精神的疲労、身体的疲労)と第一主成分得点の非増群でのみ、増群に比べて RT の短縮が有意に大きい結果であった。

【考察・結論】

運動系列学習による精神的疲労感や身体的疲労感、心身の不調の増加は、学習の初期段階で学習を阻害する可能性が示唆された。

倫理審査申請承認機関：人間総合科学大学（第 661 号）

キーワード：心身健康科学，運動系列学習，疲労感

採血時における精神的不安が自律神経に与える影響

○永田 美智^{1,2)}, 小岩 信義³⁾, 中山 和久³⁾, 鍵谷 方子³⁾

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科

2) 静岡医療科学専門学校 医学検査学科 3) 人間総合科学大学大学院

【目的】

採血に関連して一時的な血圧低下により生じる血管迷走神経反応は、不安や緊張など精神的側面が大きく関与していると言われている。そこで上記の発症率が高い若年者を対象として、採血時における精神的不安の存在が、自律神経機能に与える影響について探ることを目的とした。

【方法】

対象は18～22歳の健常な学生19名とし、採血前後に主観的感情を尋ねる調査票と不安尺度であるSTAIを記入した。採血前安静時から止血までの間は、心拍数と自律神経活動を計測するための心電図を記録し、同時に手掌部のサーモグラフィ撮影を行い皮膚表面温度から血管交感神経の働きを観察した。なお採血準備中から採血中は、採血者が必要最低限の声かけのみをする対照群と、不安を取り除くようなケアコミュニケーションを行うケアコミ群の2群に分けて対応した。

【結果】

主観的感情は、両群において有意差はなかった。採血前安静時を基準とした心拍数は、対照群では採血中に有意に減少したが、ケアコミ群では遅れて止血1-2分後に有意に減少した。この時の心拍数は両群ともにHFと負の相関があり、さらにケアコミ群のみHFと状態不安に正の相関を認めた。皮膚表面温度は、ケアコミ群のみ指先温度と状態不安に加えて、指先温度とHFにおいても負の相関を認めたものの、対照群ではこうした関係性がみられなかった。

【考察】

侵襲刺激である採血時において、ケアコミ群は状態不安と心臓副交感神経や皮膚血管交感神経の活動が連動しており、精神的な不安という感情と自律神経を介した身体反応の動きには、心身相関という関係性があることが示唆された。

【結論】

精神的不安という感情と自律神経を介した心身相関の関係性は、ケアコミュニケーション対応下においてのみ認められた。こうした対応が、反射的なシステムによる急激な変化を緩徐にしているのかを明らかにするためには、今後さらなる研究が必要である。

倫理審査申請承認機関：人間総合科学大学（第677号）、静岡医療科学専門学校（R3-13号）

キーワード：心身健康科学、採血、不安、自律神経、血管迷走神経反応

—MEMO—



日本心身健康科学会 事務局
人間総合科学大学 人間総合科学 心身健康科学研究所内
〒339-8539 埼玉県さいたま市岩槻区馬込 1288
TEL : 048-749-6111 FAX : 048-749-6110
E-Mail : jshas@human.ac.jp URL : <https://jshas.human.ac.jp>